

<単元・題材名等>

Unit4 Be Prepared and Work Together

ねらい

自分の町に住む外国人が困っていることに気付き、一人でも適切に避難行動が取れるような防災マニュアルを作成することを通して、避難等に関わるアドバイスを書きまとめることができる。

主なICTの活用方法

- ・外国人に対する防災時の対応についてのアンケート結果を提示することにより、外国人の困り感をつかみ、課題意識をもつ。
- ・仲間が書きまとめたワークシートを撮影し、共有フォルダに保存する。同じ分野で書きまとめている仲間の表現を参考にすることで、自身の表現に生かす。

ICTを通じて育成する資質・能力

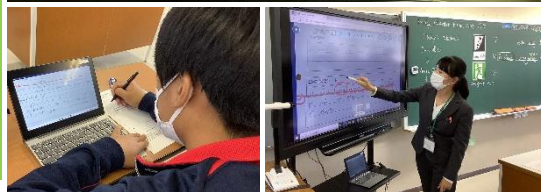
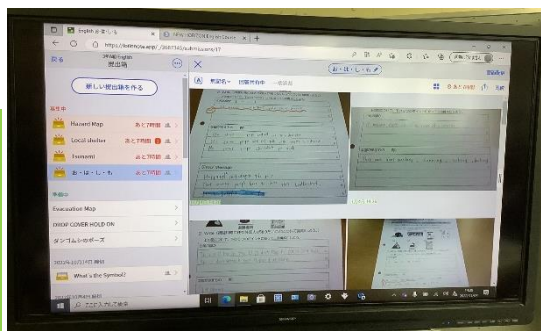
- ・外国人の困り感や実態をつかむことで、相手の知りたいことや、相手にとって必要な情報について考えて、防災マニュアル作りに取り組むことができる。
- ・仲間の書いた英文を共有することで、多様な考えや表現に触れて、比較・整理しながら自身のアドバイスを再構築することができる。

実践の概要

日本において、地震や火災などの災害が起きたときに、日本に住む外国人がどのような状況に直面するかを考え、社会の一員として自分にできることについて考える。「日本に住む外国人が困ること」について、教科書の題材を読み取ることを通して、自分の町に住む外国人のことを考えながら、問題意識をもち、単元を通して、外国人のための防災ガイドブックを作成する活動を位置付けた。

生徒の学びの様子

- 日本で暮らす外国人が困っていることをアンケート結果から読み取り、避難先がどこか、避難の際の注意点について困っているという結果から本時の課題意識をもつことができた。
- 表現方法に加えて、表現内容の共有をすることにより、苦手意識をもつ生徒も、仲間の表現を参考にして意欲的に取り組むことができた。
- 共有フォルダに保存したワークシートを共有することにより、標識を説明する表現に加えて、“You must use your handkerchief to cover your mouth.” など、避難の際に注意すべき点等を表現した内容を共有することができた。



指導のポイント

- どの生徒にも使用させたい表現を、仲間の表現から取り出して全体に広めることは、苦手意識のある生徒だけでなく、すべての生徒の参考になるため、ICTを活用した提示は効果的である。
- 同じ分野で表現している仲間の英文を参考にする際、表現内容に加えて、表現方法も共有することができる。書かれていることをそのまま書き写すのではなく、文脈を意識して取り入れるように指導することで、伝えたい内容に合った表現を選択して、自分の言葉で表現できるようにする。